

2009年11月30日発行

各 位



市民ランニングの普及、発展に貢献した人物・団体などを表彰する第22回ランナーズ賞（主催：ランナーズ賞選考委員会/事務局：株式会社アールビーズ）の授賞式を12月1日（火）16：00よりウェスティンホテル東京（恵比寿ガーデンプレイス内）で開催いたします。

●ランナーズ賞とは

市民ランニング界に広く貢献する方にお贈りする賞で、対象はランニングに関わるあらゆるもの。長年に渡り、市民ランナーの規範的生活を送り、健康であることの喜び、ランニングのすばらしさを多くの人々に伝えるなど、有意義な活動をされている人、団体、その他、有形無形を問わずに表彰するものです。一般公募制とし、毎年、雑誌「ランナーズ」の誌上やインターネット「RUNNET」にて募集。書類による一次審査後、ランナーズ賞選考委員会によって決定されます。受賞者には正賞の楯と、副賞として賞金30万円を贈呈いたします。



●第22回ランナーズ賞授賞式のご案内

日時：平成21年12月1日（火）

会場：ウェスティンホテル東京（恵比寿ガーデンプレイス内）
（Map：<http://www.westin-tokyo.co.jp/access/index.html>）

受付	16:00～（地下1階 桜の間 前）
ランナーズ賞授賞式	16:30～（地下1階 桜の間）

● 第 22 回ランナーズ賞授賞者ご紹介



さとう きはち としこ
佐藤喜八さん(83 歳)・十四子さん(84 歳)

80 歳を過ぎてなお、夫婦そろってフルマラソン完走を目指し、各地の大会に出場。その温かい人柄と元気にランニングを楽しむ姿は、多くのランナーたちに夢と希望を与える。今年度の「フルマラソン 1 歳刻みランキング」では、83 歳の部で喜八さん 2 位、十四子さんは 1 位で、女子最高齢完走者。佐賀県在住。

さとう みつこ
佐藤光子さん(47 歳)

大阪教育大学非常勤講師、ランニング学会副理事長などを務め、市民ランナーの指導にあたる。競技者としてもフルマラソン自己ベスト 2 時間 47 分 53 秒、大阪国際女子マラソン 10 年連続出場など、素晴らしい成績を残す。また、30 歳で長男を出産した際には、自らの身体でデータを取り、論文「一般ランナーにおける妊娠中のランニングと身体変化に関する事例研究」を発表。長年にわたり、研究テーマでもある「心拍トレーニング」普及にも尽力している。近年ではトレイルランの世界にも活躍のフィールドを広げ、山を走る楽しさをランナーたちに伝道中。大阪府在住。



ながたに せいいち
永谷誠一さん(83 歳)

1972 年、日本の走友会の草分けでもある「熊本走ろう会」創設に携わる。翌年、同会は「遅いあなたが主役です」のスローガンで有名な「天草パールラインマラソン」を開催。

また、2008 年には、10 年にもわたって自ら仲間とともにカマを振るい、整備したトレイルで、「九州脊梁山脈トレイルラン」を行うなど、83 歳の今でも、精力的にランニングに関する活動を展開している。

1981 年、日本人として初めて「ハワイ・アイアンマン大会」に出場した、日本トライアスロン界のパイオニアでもある。熊本県在住。



●取材に関するお問い合わせ (ランナーズ賞選考委員会事務局)
株式会社アールビーズ 社長室 E-mail: press@runners.co.jp